



【主催：東京財団政策研究所】
都道府県で共創する未来
～ウェルビーイング政策に関する優良事例の共有と連携強化～

熊本県民の幸福量を測る指標 「県民総幸福量（AKH）」



熊本県企画振興部企画課

はじめに：熊本県について

熊本城



くまモン



阿蘇



熊本県

人口：約173万人 市町村数：45市町村
観光：熊本城・くまモン・阿蘇
※47都道府県幸福度ランキング（2022年版）第27位



Point1

幸福度指標作成の**背景**

Point2

幸福度指標の**概要**と算出方法

Point3

幸福度指標の**活用**

1 幸福度指標作成の背景

熊本県では平成20年度以降、県政運営の基本方針に一貫して

「県民総幸福量の最大化」 を上位目標に位置付けている

県政の基本 = 「県民総幸福量の最大化」

H20年度～

くまもとの夢
4力年戦略

H24年度～

幸せ実感くまもと
4力年戦略

H28年度～

熊本復旧・復興
4力年戦略

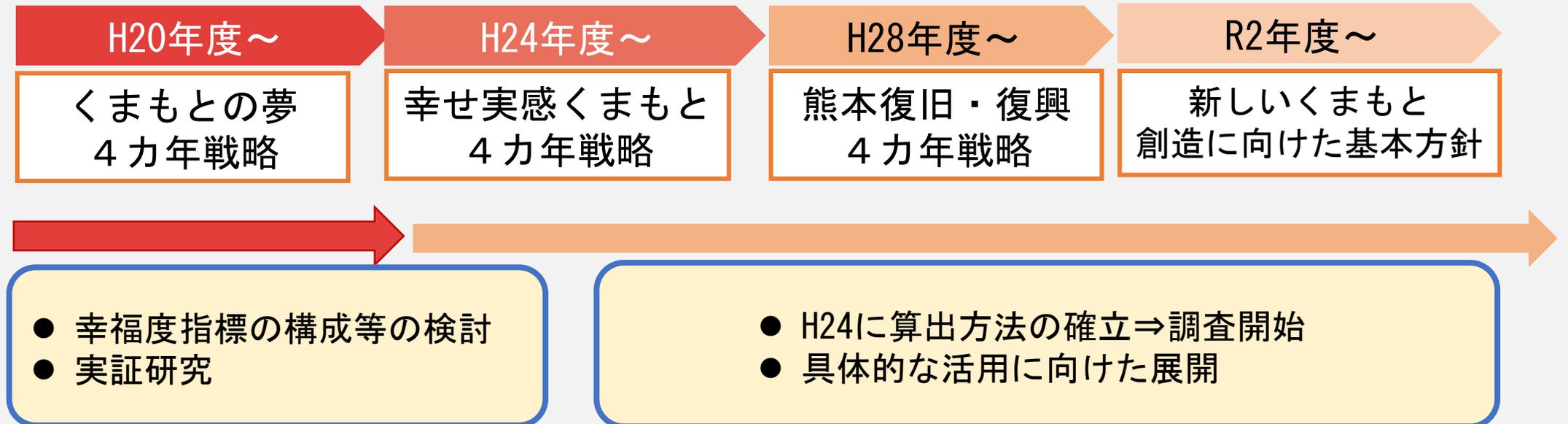
R2年度～

新しいくまもと
創造に向けた基本方針

1 幸福度指標作成の背景

課題：県民の総幸福量をどのように測定するか？

⇒ 「幸福度指標（AKH）」の作成



2 幸福度指標の概要と算出方法

県民総幸福量（AKH）

A K H = Aggregate Kumamoto Happiness
(総～) (熊本) (幸福)

- 県政の基本理念である「県民総幸福量の最大化」の考え方を県民と共有し、効果的な施策につなげることを目的として作成した幸福度指標
- 熊本学園大学の研究者で構成する「くまもと幸福量研究会」と、熊本県との共同研究により作成

2 幸福度指標の概要と算出方法

県民総幸福量 (AKH)

AKH = Aggregate Kumamoto Happiness
(総～) (熊本) (幸福)

主観を数値化

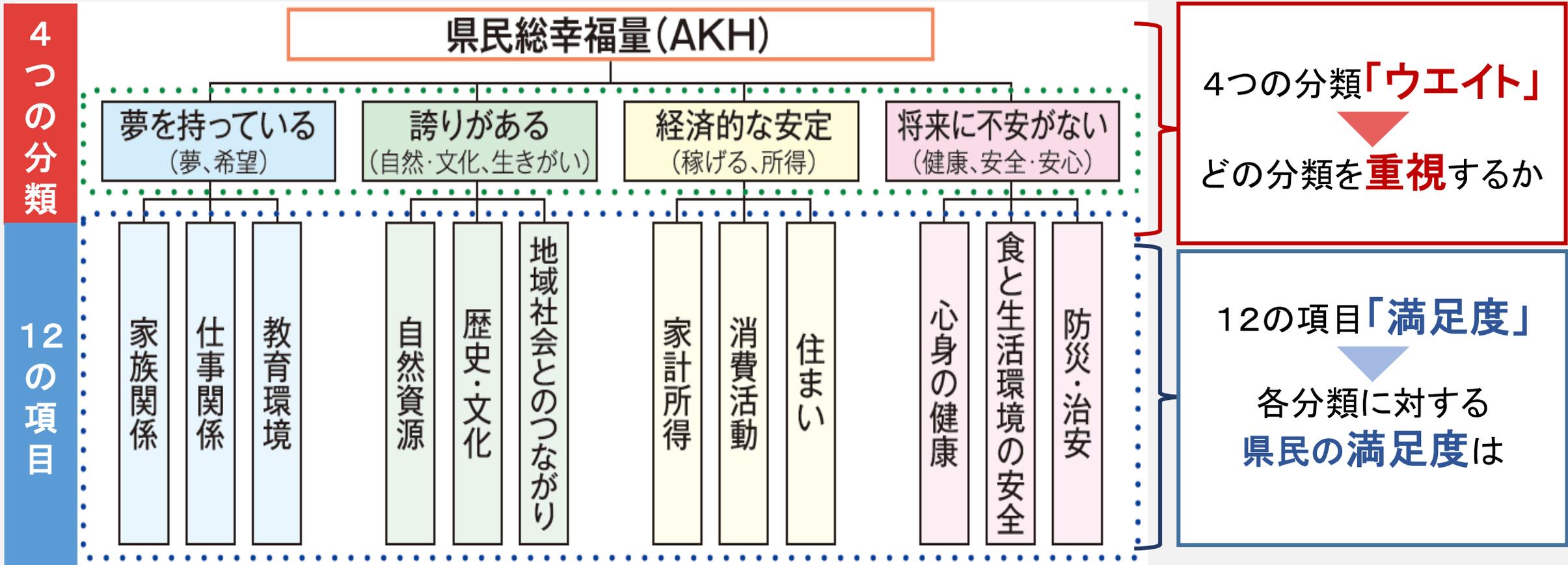
「総幸福量の最大化」という理念を
目に見える数値として把握し、現実
の施策として展開することが可能

細やかな分析が可能

効果的な政策課題の抽出や
施策展開が可能

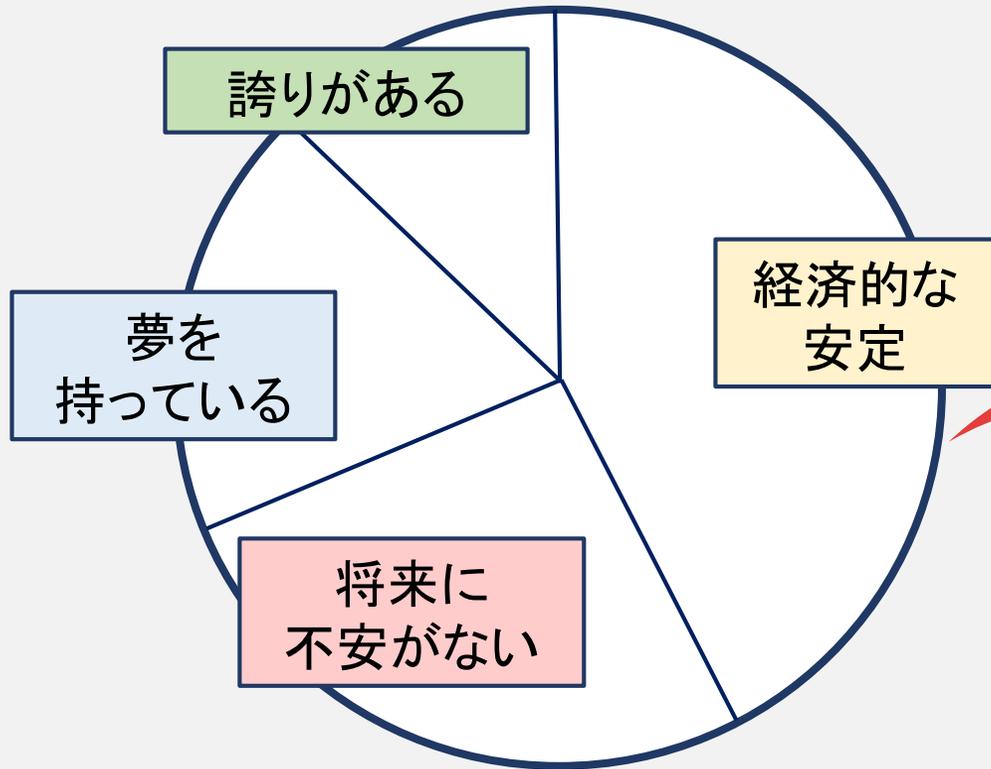
2 幸福度指標の概要と算出方法

“4つの分類” と “12の項目” について意識調査

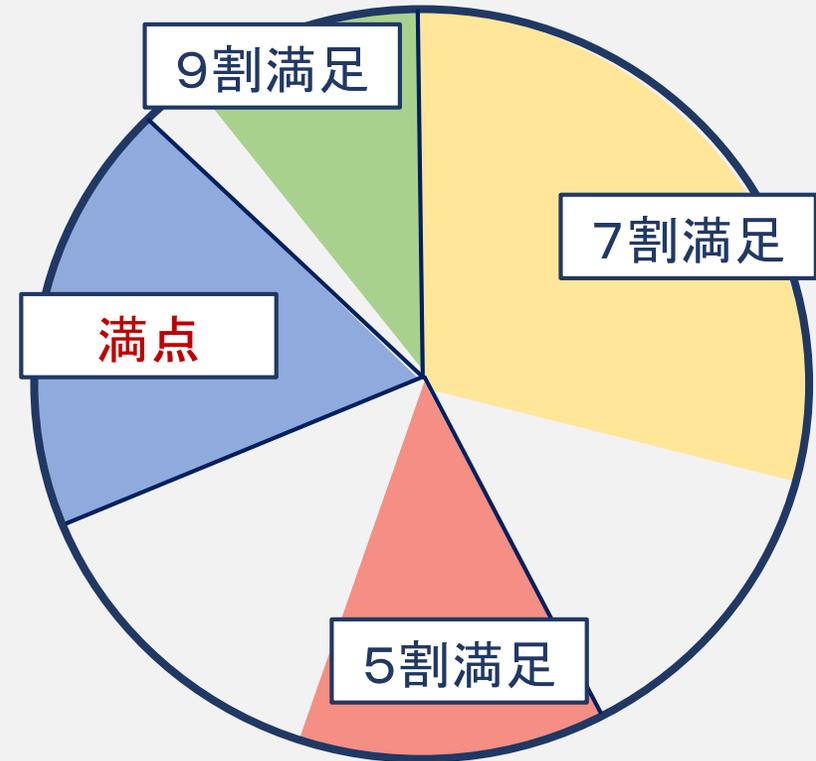


2 幸福度指標の概要と算出方法

4つの分類「**ウエイト**」
各分類の割合(重視する順番)を決める



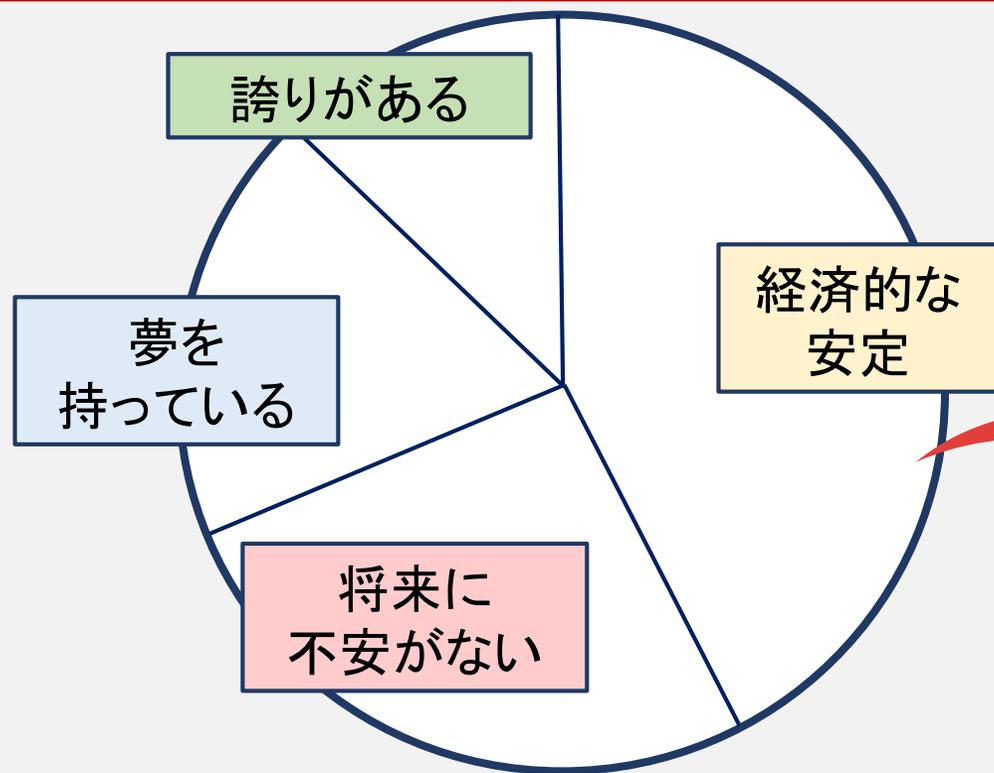
12の項目「**満足度**」
分類毎の満足度の状態を決める



塗りつぶした部分の総和が「県民総幸福量(AKH)」

2 幸福度指標の概要と算出方法

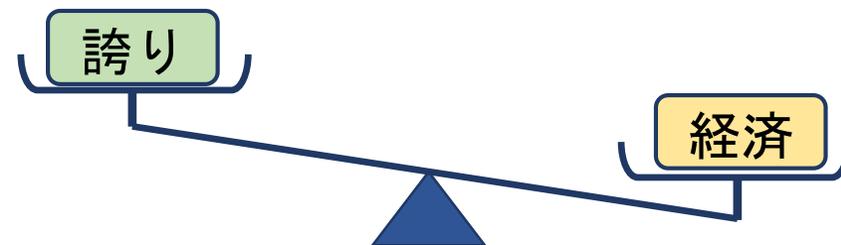
4つの分類「**ウエイト**」
各分類の割合(重視する順番)を決める



「満足度」だけで幸福を
判断しないのは？

「誇りがある」と「経済的な安定」
両方が“大事”

同じ「大事」でも程度も同じなのか？



より重視しているのは「経済的な安定」であり、
重要度の高い項目が満たされている方が
幸福度が高い

2 幸福度指標の概要と算出方法

AKHの調査手法

対象者

県内在住の満18歳以上の男女3,500人（無作為抽出、郵送法）
※R3までは満20歳以上の男女

- ◆ 県内全市町村の満18歳以上の男女の人口構成比により標本数を按分し、市町村ごとの標本数を決定
- ◆ 各市町村の住民基本台帳に基づき無作為抽出

項目

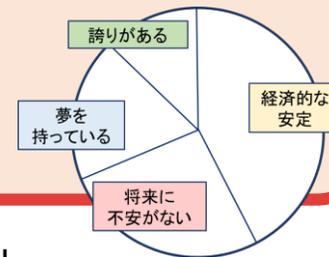
回答者の属性

性別、年代、居住地、居住年数

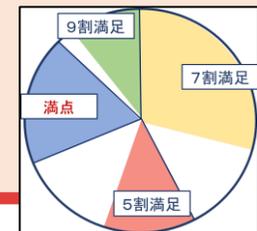
直観的な幸福度

問：現在、あなたは幸せだと感じていますか。

4つの分類で重視する順位（ウエイト）



12の項目に関する満足度



※単純集計+地域や年代によるクロス集計

2 幸福度指標の概要と算出方法

$$AKH = A + B + C + D$$

夢を持っている

誇りがある

経済的な安定

将来に不安がない

アンケート回答から
平均値を算出

ウエイト a

ウエイト b

ウエイト c

ウエイト d

$$a + b + c + d = 10 \text{点}$$

アンケート回答から
それぞれ平均値を
算出して合算

満足度

①

家族関係

+

②

仕事関係

+

③

教育環境

満足度

①

自然資源

+

②

歴史・文化

+

③

地域社会
とのつながり

満足度

①

家計所得

+

②

消費活動

+

③

住まい

満足度

①

心身の健康

+

②

食と生活
環境の安全

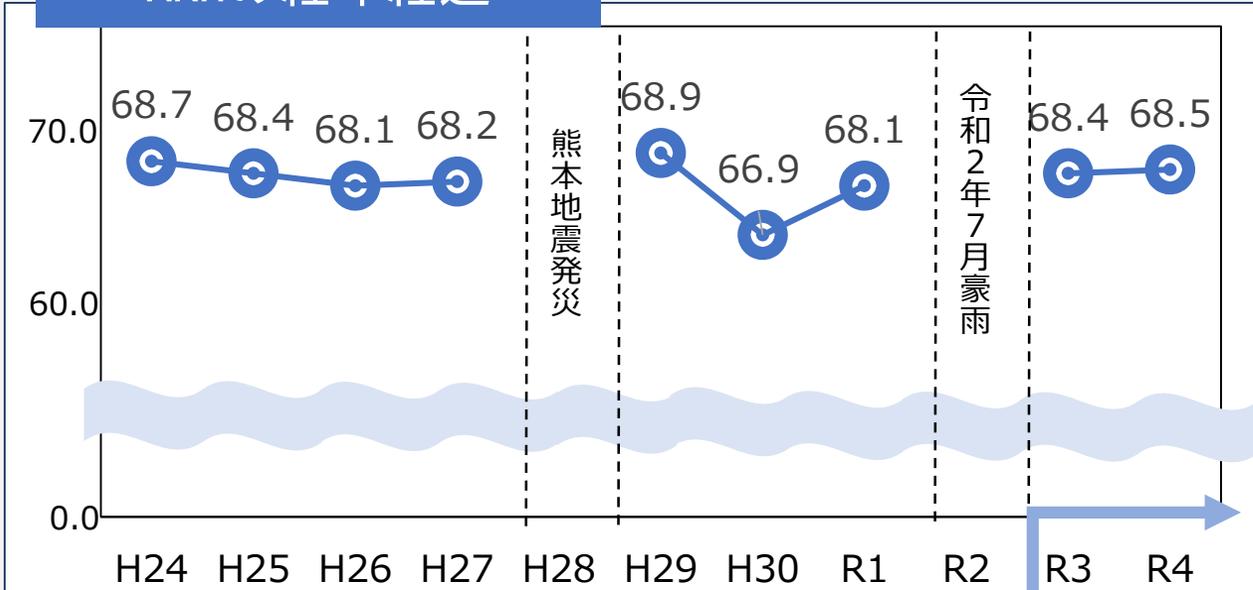
+

③

防災・治安

3 幸福度指標の活用

AKHの経年経過

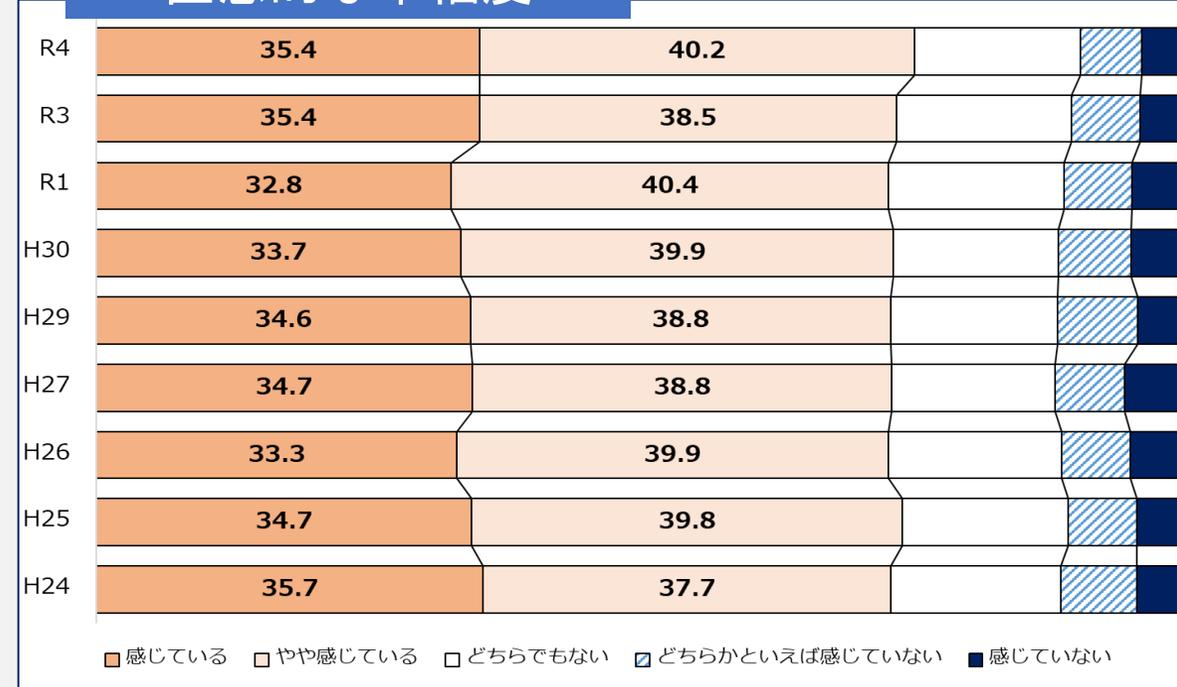


Point

課題：設問が複雑
(回収率低い、算出が複雑)

R3から算出方法を簡略化
これまでの調査結果をもとに作成
した計算式を使用して算出

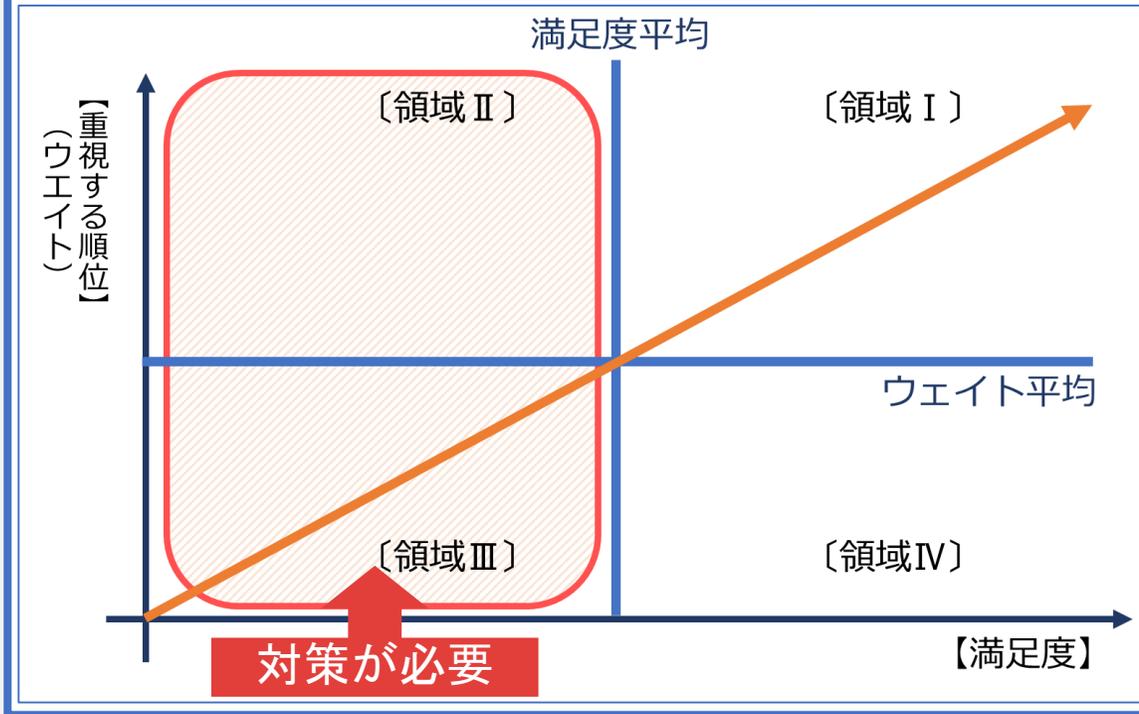
直感的な幸福度



概要 (AKH・直感的な幸福度)

- これまでのAKHの最高値は68.9 (H29年度)、最小値は66.9 (H30年度) となっており、年によって多少の変動はあるものの、安定した数値を維持して推移している。
(※H28年度は熊本地震の影響を、また、R2年度は令和2年7月豪雨の影響を踏まえ調査を実施していない。)
- 直感的な幸福度 (幸せを「感じている」、「やや感じている」と回答した方の割合) についても、どの年度も幸せを「感じている」と回答している割合が7割から8割程度で推移しており、安定している。

重視する順位と満足度



【4つの領域の位置付け】

- 〔領域Ⅰ〕 満足度、ウエイトともに平均より高い
- 〔領域Ⅱ〕 満足度は平均より低いが、ウエイトは平均より高い
- 〔領域Ⅲ〕 満足度、ウエイトともに平均より低い
- 〔領域Ⅳ〕 満足度は平均より高いが、ウエイトは平均より低い

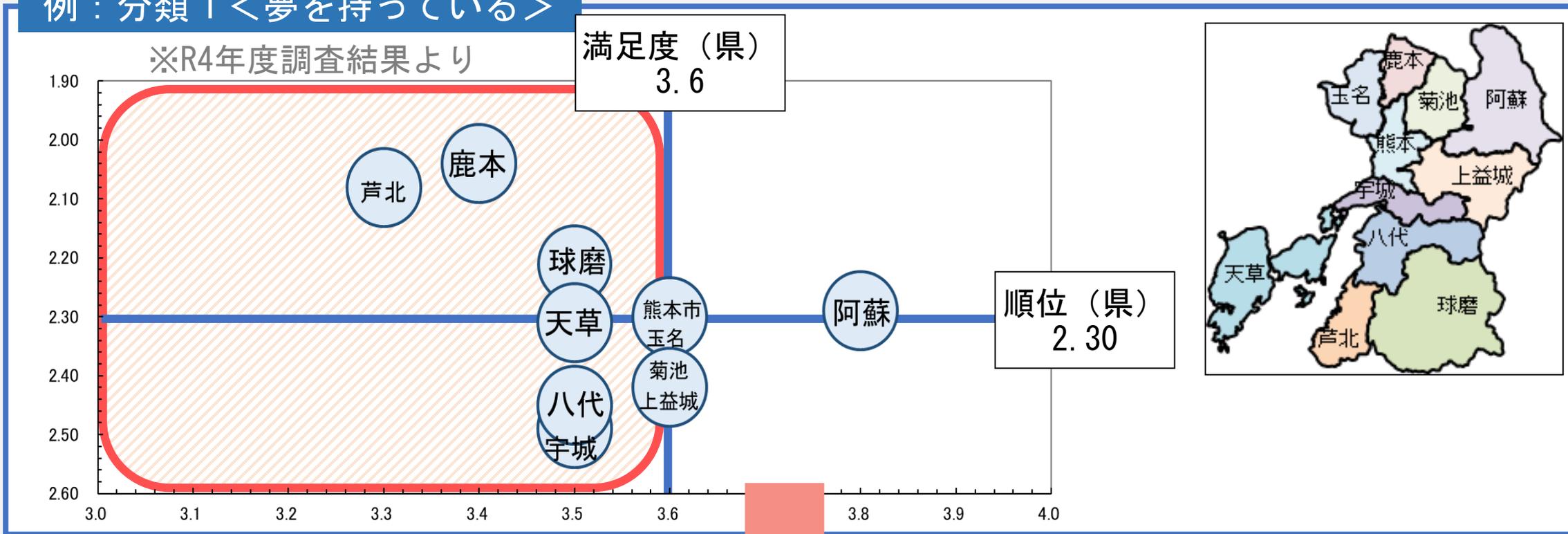
グラフを使ったAKH活用の考え方

- “4つの分類” ごとに、満足度が県全体の値よりも低くなる領域Ⅱと領域Ⅲに位置する地域や年齢層に着目し、これらの満足度を高めるための施策を実施していくことが重要と考えられる。

3 幸福度指標の活用

例：分類1 <夢を持っている>

※R4年度調査結果より



グラフを使ったAKH活用の考え方

- 領域Ⅱと領域Ⅲに位置している地域では「夢をもっている」（家族関係、仕事関係、教育関係）の満足度が低い。
- 特に領域Ⅱにある鹿本、芦北、球磨地域は県全体よりも順位（ウエイト）が高いが、満足度が低い。

これまでの分析で見えたこと

地域によって求める
幸福の形は異なる

幸福の要因として
非経済的な要因も重要
(「夢」「誇り」)

具体的な活用に向けた展開

①政策評価

AKHの変動を政策評価に記載し、「県民総幸福量の最大化」に向かって進んでいるかどうかを確認

②きめ細やかな政策立案

調査結果から地域別や年齢階層別のクロス集計による分析結果を活用

③住民参加型の政策形成

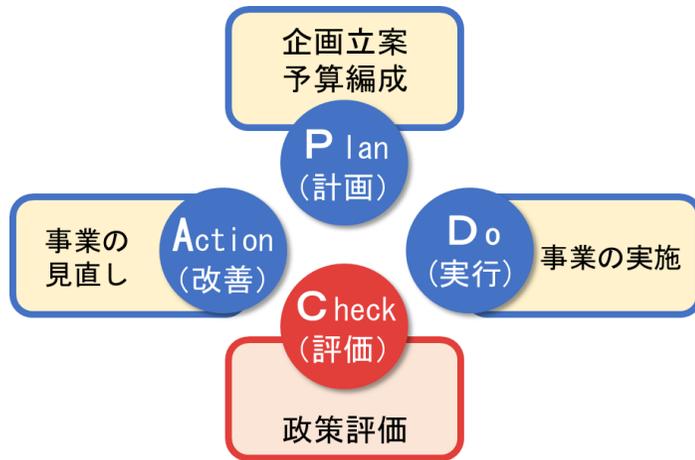
県や市町村の企画担当者等を対象に指標の考え方を説明

県民アンケートの継続による
データの蓄積と活用推進

セミナー等を通じた
活用推進

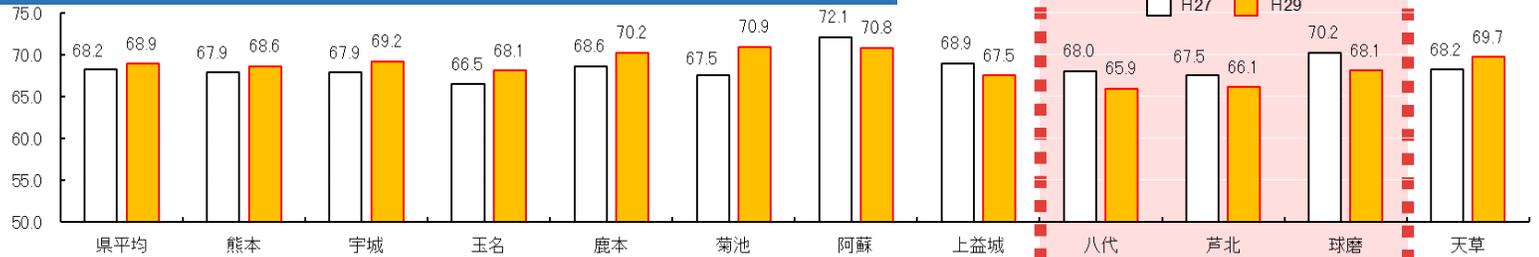
①政策評価

AKHの変動を政策評価に記載し、「県民総幸福量の最大化」に向かって進んでいるかどうかを確認



- 県民アンケート（AKH等）
- 総合戦略に掲げるKPI評価
- 外部委員による評価

特徴的な変化：H29調査結果より



AKH 県全体は68.9で過去最高 ⇔ 県南地域は低下している

考察

- 県南地域におけるAKHの数値的変動
八代・芦北地域 ⇒ 「夢」「誇り」の満足度、ウエイトともに低下
球磨地域 ⇒ 「夢」の満足度、「経済」の満足度、ウエイトともに低下

● 総合戦略に掲げるKPI評価

- ↓ 農林水産業における新規就業者数減
- ↓ 延べ宿泊者数・延べ外国人宿泊者数減

くまもと県南フードバレー構想の更なる推進
八代港を活用したクルーズ船ツアーコースの多様化



これまでの分析で見えたこと

幸福の要因として
非経済的な要因も重要
(「夢」「誇り」)



県民の「幸せ実感」を高めるためには？

身近にある幸せのタネに気づき
それぞれの幸福の形を考えること

熊本県のしあわせ部長！

プチはっぴー
拡散プロジェクト



幸せづくり



「県民総幸福量（AKH）」の特徴

主観を数値化、細やかな分析が可能な構造

「県民総幸福量（AKH）」の算出

4つの分類で重視する順位（ウエイト）



4つの分類に関する満足度

「県民総幸福量（AKH）」の活用に向けた展開

政策評価

きめ細やかな
政策立案

住民参加型の
政策形成